

VOICES from the ARCTIC

Vol.35 / 2024.3.19

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



アメリカ海洋大気庁、 北極圏の温暖化の加速を示す 「2023年北極報告カード」を 発表



北極圏の2023年夏季の平均気温は史上最高の6.4°C、年平均気温は史上6位の-7°Cであった。海氷面積とグリーンランド氷床は減少を続け、5月の北米の積雪面積は記録的に少なかった。8月の海面水温は、北極海のロシア近海などで1991~2020年同月の平均を5~7°C上回ったが、グリーンランド近海などでは異常な低温となった。北極海の8月に解氷する海域の海面水温は、1982年以降10年あたり0.5°C上昇を続ける。北極域の降水量は記録史上6位、記録的な豪雨の一方で夏季にカナダ北部では乾燥による大規模な山林火災が発生した。

記事参照：<https://www.eic.or.jp/news/?act=view&word=&category=&oversea=1&serial=50047> (2024.1.4/EICネット)

上川外務大臣とゴールドフェルト・スウェーデン極地研究事務局長との意見交換



ストックホルムを訪問中の上川陽子外務大臣は、カタリーナ・ゴールドフェルト・スウェーデン極地研究事務局長との間で意見交換を行った。同大臣は、地球上で最も脆弱な環境である北極は自信のライフワークであり、2013年に北極議連を立ち上げ幹事長として日本における北極に関する科学研究の促進、人的交流や国際協力の推進を支援してきたこと、また、地政学的な重要性に鑑みても外務大臣として北極域を日本の海洋に関する重要な外交政策の一環として取り組んでいくことを述べた。両者は、今後日本とスウェーデンを含む北欧諸国が北極域に関して研究協力を進めて行くことで一致した。

記事参照：

https://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/we/se/pa/geit_000001_00176.html (2024.1.10/外務省)

中国、ロシアの北極圏LNG 2プロジェクトを支援するプレハブ・モジュールの納入を継続

2隻の氷上対応型大型リフト船AudaxとPugnaxが、北極域LNG 2用の新しいモジュールを積んで中国を出港した。機器の搬入が継続しているという事実は、制裁を通じてノバテックの最新プロジェクトの完成を阻止しようとしている欧米当局の試みが困難に直面していることを浮き彫りにしている。欧米の制裁が強まっているにもかかわらず、ノバテックは北極LNG2プロジェクト用のプレハブ・モジュールを受け取り続けている。両船は1月6日に中国蓬莱を出港し、ロシアのムルマンスクに向かっている。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/china-continues-to-deliver-prefabricated-modules-in-support-of-russias-arctic-lng-2-project/>
(2024.1.8/Arctic Today)



韓国を北上するPugnaxとAudaxの航路（左の地図）とベーリング海峡付近で操業する砕氷船Arktika（右の地図）。（right map). (Source: Shipatlas)

フランツ・ヨーゼフ諸島に向かって漂流する「北極点」



セヴェルニー・ポリウス号（北極号）はバスタブのような特徴的な形をしており、「北極プラットフォーム」とも呼ばれている。北極調査のためのロシア独自の新しい浮遊基地である。この船はロシアの気象機関ロシドロメットによって運航され、北極域の過酷な条件下で地質学、音響学、地球物理学、海洋調査を行うことができる。船内には15の研究室があり、研究者たちは年間を通じて研究を行うことができる。2022年10月に出港した同号は1月の第1週にはフランツ・ヨーゼフ諸島北側付近の北緯83度地点を漂流している。

記事参照：<https://www.arctictoday.com/the-north-pole-is-drifting-towards-franz-josef-land/> (2024.1.9/Arctic Today)



北極圏の海水域を最長2年間自律的に漂流できるセヴェルニー・ポリウス号。

Photo: Roshydromet

ロシアからのデータ不足は北極圏の気候予測を無意味にするかもしれない



ロシアによるウクライナ戦争と、それに伴う西側諸国のロシアとの協力関係の停止により、北極域における気候研究が阻害される可能性がある。この協力の停止によって、科学者は北極域における将来の気候変動をやがて予測できなくなる恐れがあり、ひいては世界全体の気候変動の予測精度を低下させることに繋がるだろう。著名な気候科学者9名によって執筆された研究への影響についての論考が『Nature Climate Change』誌上にて発表された。

記事参照：<https://www.arctictoday.com/the-lack-of-data-from-russia-may-render-arctic-climate-forecasting-meaningless/>
(2024.1.23/Arctic Today)



サモイロフ島研究ステーションは、ロシア科学アカデミーシベリア支部トロフィムク石油地質・地球物理学研究所が所有・運営している。ロシアとの関係が冷え込み、データが不足していることが、気候科学に悪影響を及ぼしている。
(Anne Morgenstern, via eu-interact.org)

アーク2の初出荷は2月 ロシア副首相、北極圏LNGで

ロシアのノバク副首相は25日、日本が権益の一部を持つ北極域の液化天然ガス（LNG）開発事業「アークティックLNG2」の初出荷が「開発会社の情報では、おそらく2月になる」と語った。インタファクス通信が報じた。アーク2はロシア天然ガス大手ノバテクが主導し、日本の独立行政法人、エネルギー・金属鉱物資源機構と三井物産も共同で権益を保有している。

記事参照：

<https://www.sanyonews.jp/article/1507537>
(2024.1.26/山陽新聞)

アークティック・フロンティア国際会議 大舞台から消えた北極最大の国

WEBメディア『Barent's Observer』にて長年ロシア取材してきたトーマス・ニールセン記者は、アークティック・フロンティア国際会議において、隣国ロシアとの国境通過が1918年と同等の低水準にあることなど、両国の関係悪化を示す日常的な事例を紹介した。

記事参照：

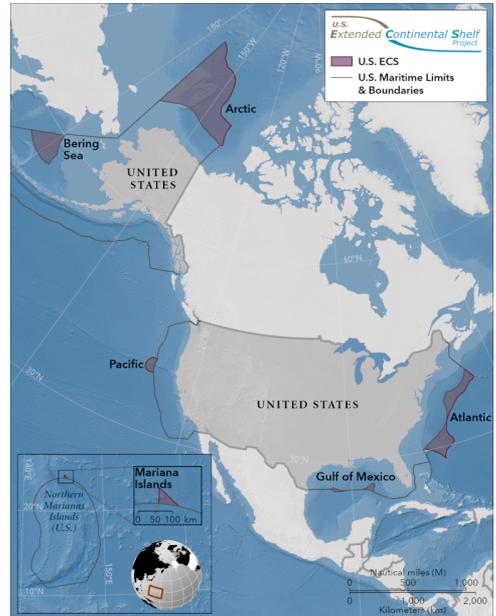
<https://www.arctictoday.com/arctic-frontiers-the-biggest-arctic-state-missing-from-the-big-stage/> (2024.1.30/Arctic Today)

米国、北極アラスカ沖とベーリング海中央部に新たな大陸棚を追加する申請を準備



米国の大陸棚は、カリフォルニア州の2倍以上の面積に拡大する可能性がある。米国務省は今月、同国の排他的経済水域（200海里）を超えた大陸棚の延伸部を測量するという20年来の調査の結果を発表した。連邦政府の諸機関が行ってきた水深・地質調査によって、峡谷、海嶺、深海台地が連なる複雑な海底の詳細な地図が初めて作成された。国務省によれば、今回の地図作成により、米国はさらに98万7700平方キロメートル、すなわちカリフォルニア州の約2倍の面積の権利を有することが明らかになった。そのうちの半分以上の52万400平方キロメートルは、アラスカ北斜面沖の200海里の排他的経済水域を越えた北極海に位置することになる。

記事参照：<https://www.arctictoday.com/u-s-preparing-to-claim-new-ocean-territory-off-arctic-alaska-and-in-central-bering-sea/> (2024.1.2/Arctic Today)



北米大陸とその周辺海域の本地図は、米政府が申請準備をしている大陸棚の延伸部を示している。北極海は同国が予定している大陸棚延伸主張の中で最も広い範囲を占めることになる。

(Map provided by U.S. State Department)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.35は、2024年1月のニュースを掲載しています。

夏季平均気温の記録更新、有志連合化しつつある北極政治（北極評議会）とその他余としての北極科学協力の停滞。私たちは一体何を学び取るべきなのか、自問自答の日々です。

（大西）

発行元：ArcS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
 E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

